



5 ユーティリティの インストールと操作

この章では、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」が提供する機能やEXPRESSBUILDERの使用方法、および、EXPRESSBUILDERに格納されている各種ユーティリティソフトウェアについて説明します。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェアの構成を運用時と同じ状態にしてください。

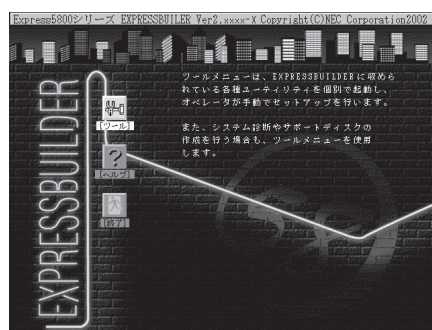
起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

● EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERをExpress5800/ftサーバのCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でExpress5800/ftサーバを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からExpress5800/ftサーバをセットアップします。



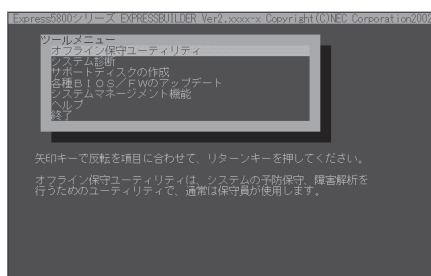
- Express5800/ftサーバ以外のコンピュータ、およびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpress5800/ftサーバ以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

● コンソールレスでEXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

キーボードやマウス、ディスプレイ装置をExpress5800/ftサーバに接続していない状態でEXPRESSBUILDERをExpress5800/ftサーバのCD-ROMドライブから起動すると、LANかCOM(シリアルポート)で接続している管理用コンピュータ(PC)の画面には、右に示す「EXPRESSBUILDERツールメニュー」が表示されます。

管理PCからこのメニューにある項目を使ってExpress5800/ftサーバを遠隔操作をします。





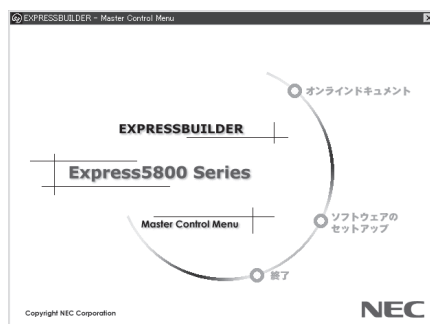
- Express5800/ftサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpress5800/ftサーバ以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、以下の動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

EXPRESSBUILDERツールメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップ、およびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

起 動

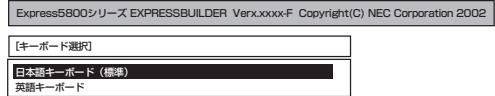
次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、Express5800/ftサーバの順に電源をONにする。
2. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブへEXPRESSBUILDERと印刷されたCD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpress5800/ftサーバを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

キーボードの選択

EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、キーボードの選択メニューが現れます。購入したシステムで使用するキーボードを選択してください。なお、このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。



1度設定を行った後、キーボードの設定を変更したい場合は、EXPRESSBUILDER起動中(画面中央部に「EXPRESSBUILDER」のロゴ表示があるとき)に<K>キーを数秒間押してください。画面にキーボード選択画面が現れ、キーボードの再設定ができます。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。

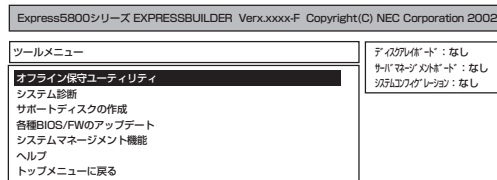
ツール
EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。

ヘルプ
EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。

終了
EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。次にツールメニューにある項目について説明します。



● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細はオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動されます。6-7ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

ー ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

ー オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

ー システム診断ユーティリティ

システムチェックプログラムの起動用のサポートディスクを作成します。

ー システムマネージメント機能

システムマネージメント機能の起動用サポートディスクを作成します。

● 各種BIOS/FWのアップデート

インターネットで配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、Express5800/ftサーバのBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『8番街』：<http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● システムマネージメント機能

ー BMCファームウェアの更新

インターネットで配布される「BMC FW update データ」を使用して、Express5800/ftサーバのBMC(Baseboard Management Controller)ファームウェアを更新することができます。



BMCファームウェアの更新作業をしている間はExpress5800/ftサーバの電源をOFFにしないでください。更新作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

ー システムマネージメントの設定

BMC/RomPilotの持つ通報機能、リモート制御機能を使用するための設定を行います。

● ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

● トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、Express5800/ftサーバにキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。



重要

- Express5800/ftサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpress5800/ftサーバ以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、コンソールレス動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

設定情報ファイルの作成

コンソールレスでExpress5800/ftサーバを遠隔操作するためには、操作する管理PCとの通信方法や詳細な設定を保存した「設定情報ファイル」(3.5インチフロッピーディスク)が必要です。

設定情報ファイルは、EXPRESSBUILDERにあるアプリケーション「MWA (Management Workstation Application)」を使用します。



重要

MWAのセットアップと運用に関する詳しい説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「MWA ファーストステップガイド」を参照してください。

1. 管理PCにMWAをインストールする。
詳しくは、本章で説明している「MWA」の項目またはEXPRESSBUILDER CD-ROM内に格納されている「MWA ファーストステップガイド」を参照してください。
2. フォーマット済みの1.44MBのフロッピーディスクを管理PCのフロッピーディスクドライブにセットする。
3. MWAの[ファイル]メニューから[コンフィグレーション]-[新規作成]の順に選択して[設定モデルの選択(新規作成)]ダイアログボックスを表示させる。
4. [FD書き込みを行う]にチェックし、本装置のモデル名を選択して[ftサーバ用コンフィグレーション]ダイアログボックスを表示させる。
5. [ftサーバ用コンフィグレーション]ダイアログボックスで、コンピュータ名などのコンフィグレーション情報を設定/登録後、以下のファイル名でフロッピーディスクに書き込む。

<設定情報ファイル名>: CSL_LESS.cfg



重要

クローズアップによるコンソールリダイレクションでは一般のコンソールでサポートしていないキー(例えば<Alt>キーなど)は本装置でもサポートしていません。

設定項目とその値は次のとおりです。

クロスケーブルによるコンソールリダイレクション	
使用モード	ダイレクト (クロスケーブル)
ボーレート	19.2Kbps
フロー制御	なし
LANによるコンソールリダイレクション	
IPアドレス	任意
サブネットマスク	任意
デフォルトゲートウェイ	任意
1次通報先	管理用PCのIPアドレス



コンソールレス機能を使用するためにいくつかのBIOS設定情報が自動的に設定されます。

起 動

次の手順に従って起動します。



- 起動する前に「設定情報ファイル」を用意しておいてください。
- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。

管理PC側の手順

クロスケーブルによるコンソールリダイレクション

1. MWAの[ファイル]メニューから[環境設定]→[COMポート]の順に選択して[COMポートの設定]ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

<COMポートの設定>

ポート : 接続する管理コンピュータ側のCOMポート
ボーレート : 19200
フロー制御 : None

2. MWAの[ファイル]メニューの[開く]コマンドからサーバを選択してサーバウィンドウを開く。
3. サーバウィンドウ上で右クリックして表示されるポップアップメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

<[ID]ページ>

接続形態 : COM
COM : ダイレクト(クロスケーブル)

4. サーバウィンドウが開いている状態で、[接続]ボタンをクリックする。

LANによるコンソールリダイレクション

1. MWAの[ファイル]メニューの[開く]コマンドからサーバを選択してサーバウィンドウを開く。
2. サーバウィンドウ上で右クリックして表示されるポップメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

<[ID]ページ>

接続形態 : LAN

<アラートページ>

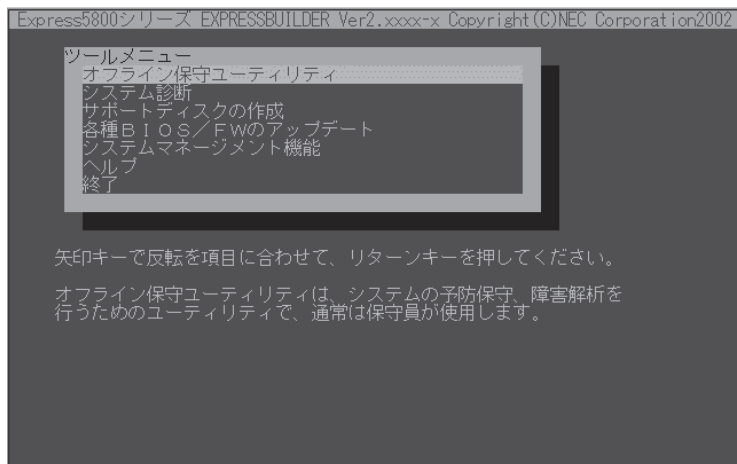
[標準設定を使用する]のチェックを外して[アクティベート]のリセットにチェックする。

3. サーバウィンドウ上で右クリックして表示されるポップアップメニューから[リモートコンソールの動作指定]コマンドを選択して[リモートコンソールの動作指定]ダイアログボックスを表示させ、[MWAモードで実行]を選択する。

サーバ側の手順

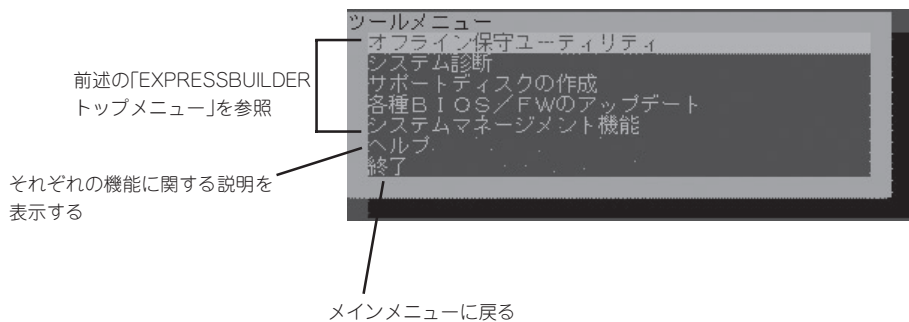
1. コンソールレス機能で操作するExpress5800シリーズ本体のBIOSセットアップユーティリティを起動して、BOOTメニューの起動順序でCD-ROMドライブが最初に起動するよう設定する。
2. 本体のフロッピーディスクドライブに「設定情報ファイルの作成」で作成したフロッピーディスクをセットする。
3. 本体のCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
4. 本体の電源をOFF/ONして本体を再起動する。

再起動中に設定情報がロードされ、ツールメニューが管理PCに表示されます。各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。



メニュー項目

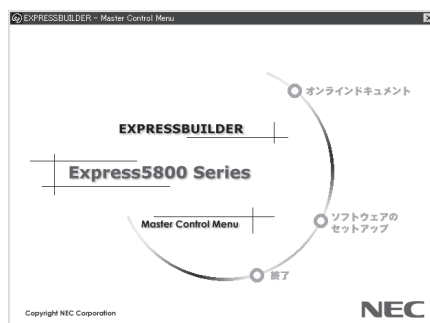
ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。



「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると「システム診断」の内容や操作方法が異なります。詳しくは、第6章の「システム診断」を参照してください。

マスターコントロールメニュー

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラなどから実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows NTで動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないときがあります。そのようなときは7-29ページを参照して関連付けを再設定してください。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]をクリックして、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ESMPRO/ServerAgent, ServerManager

Express5800/ftサーバシステムを管理するアプリケーション「ESMPRO/ServerManager」は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されています。また、「ESMPRO/ServerAgent」は、バックアップCD-ROM2に格納されています。

この項では「ESMPRO/ServerManager」と「ESMPRO/ServerAgent」が提供する機能や特長、運用時の注意事項について記載します。

Express5800/ftサーバを連続稼働させるには、これらのアプリケーションが必要であるため、運用前にインストールされていることを確認してください。

概要

ESMPRO/ServerManager、ServerAgentは、サーバシステムの安定稼働と、効率的なシステム運用を目的としたサーバ管理ソフトウェアです。サーバリソースの構成情報・稼働状況を管理し、サーバ障害を検出してシステム管理者へ通報することにより、サーバ障害の防止、障害に対する迅速な対処を可能にします。

● サーバ管理の重要性

サーバの安定稼働を保証するためには、サーバ管理の負担を軽減する必要があります。

ー サーバの安定稼働

サーバの停止は、即、お客様の営業機会、利益の損失につながります。そのため、サーバはつねに万全の状態では稼働している必要があります。万が一サーバで障害が発生した場合は、できるだけ早く障害の発生を知り、原因の究明、対処を行う必要があります。障害の発生から復旧までの時間が短ければ短いほど、利益(コスト)の損失を最小限にとどめることができます。

ー サーバ管理の負担軽減

サーバ管理には多くの労力を必要とします。とくにシステムが大規模になったり、遠隔地にあるサーバを使用しているとなればなおさらです。サーバ管理の負担を軽減することは、すなわちコストダウン(お客様の利益)につながります。

● ESMPRO/ServerManager、ServerAgentとは？

ESMPRO/ServerManager、ServerAgentは、ネットワーク上のExpress5800シリーズを管理・監視するサーバ管理ソフトウェアです。本製品を導入することにより、サーバの構成情報・性能情報・障害情報をリアルタイムに取得・管理・監視できるほか、アラート通報機能により障害の発生を即座に知ることができるようになります。

● ESMPRO/ServerManager、ServerAgentの利用効果

ESMPRO/ServerManager、ServerAgentは、多様化・複雑化するシステム環境におけるさまざまなニーズに対して十分な効果を発揮します。

ー サーバ障害の検出

ESMPRO/ServerAgentは、Express5800シリーズのさまざまな障害情報を収集し、状態の判定を行います。サーバで異常を検出した場合、ESMPRO/ServerManagerへアラート通報を行います。

ー サーバ障害の予防

ESMPRO/ServerAgentは、障害の予防対策として、事前に障害の発生を予測する予防保守機能をサポートしています。筐体内温度上昇や、ファイルシステムの空き容量などを事前に検出できます。

ー サーバ稼動状況の管理

ESMPRO/ServerAgentは、Express5800シリーズの詳細なハードウェア構成情報、性能情報を取得できます。取得した情報はESMPRO/ServerManagerをとおしてどこからでも参照できます。

ー 分散したサーバの一括管理

ESMPRO/ServerManagerは、ネットワーク上に分散したサーバを効率よく管理できるGUIインタフェースを提供します。

サーバ障害の検出

ESMPRO/ServerManager、ServerAgentは障害につながる異常を早期に検出し、リアルタイムに障害情報を管理者へ通知します。

● 早期に異常を検出

万一の障害発生時には、ESMPRO/ServerAgentが障害を検出し、ESMPRO/ServerManagerへ障害の発生を通報(アラート通報)します。ESMPRO/ServerManagerは、受信したアラートをアラートビューアに表示するとともに、障害の発生したサーバ・サーバの構成要素の状態色を変化させることにより、一目で障害箇所を特定できます。さらに障害内容や対処方法を参照することにより、障害に対して迅速に対応できます。

● 通報される障害の種類

ESMPRO/ServerAgentで通報される代表的な障害には、次のようなものがあります。

通報区分	通報内容
CPU	・ CPU負荷しきい値オーバー ・ CPU縮退など
メモリ	ECC 1bitエラー検出など
電源	・ 電圧低下 ・ 電源故障など
温度	筐体内温度上昇など
ファン	ファン故障(回転数低下)など
LAN	・ 回線障害しきい値オーバー ・ 送信リトライ, 送信アボートしきい値オーバー など

サーバ障害の予防

ESMPRO/ServerAgentは、障害の予防対策として事前に障害の発生を予測する予防保守機能をサポートしています。

ESMPRO/ServerManager、ServerAgentは、サーバの各リソースに対して「しきい値」を設定できます。設定したしきい値を超えると、ESMPRO/ServerAgentは、ESMPRO/ServerManagerへアラートを通報します。

予防保守機能は、ハードディスク、筐体内温度、CPU使用率などさまざまな監視項目に対して設定できます。

サーバ稼働状況の管理

ESMPRO/ServerAgentは、サーバのさまざまな構成要素を管理・監視します。ESMPRO/ServerAgentが管理・監視する情報は、ESMPRO/ServerManagerのデータビューアで参照できます。

また、ハードディスク・CPU・メモリ・ファン・電源・温度といった、サーバの信頼性を高いレベルで維持するために必要なものはすべて管理・監視します。

Express5800/ftサーバの監視

Express5800/ftサーバは、フォールトトレラントシステムです。主要コンポーネントが故障しても動作を継続することができます。Express5800/ftサーバはハードウェアとESMPROおよびシステムソフトウェアの機能によって、システムの可用性の向上を実現します。

万一、主要コンポーネントが故障した場合は、ESMPROの障害通報によりシステム管理者へ障害の発生を通知することができます。またESMPRO/ServerManagerのデータビューアからシステムの状態を監視するとともに、故障しているコンポーネントを特定できます。

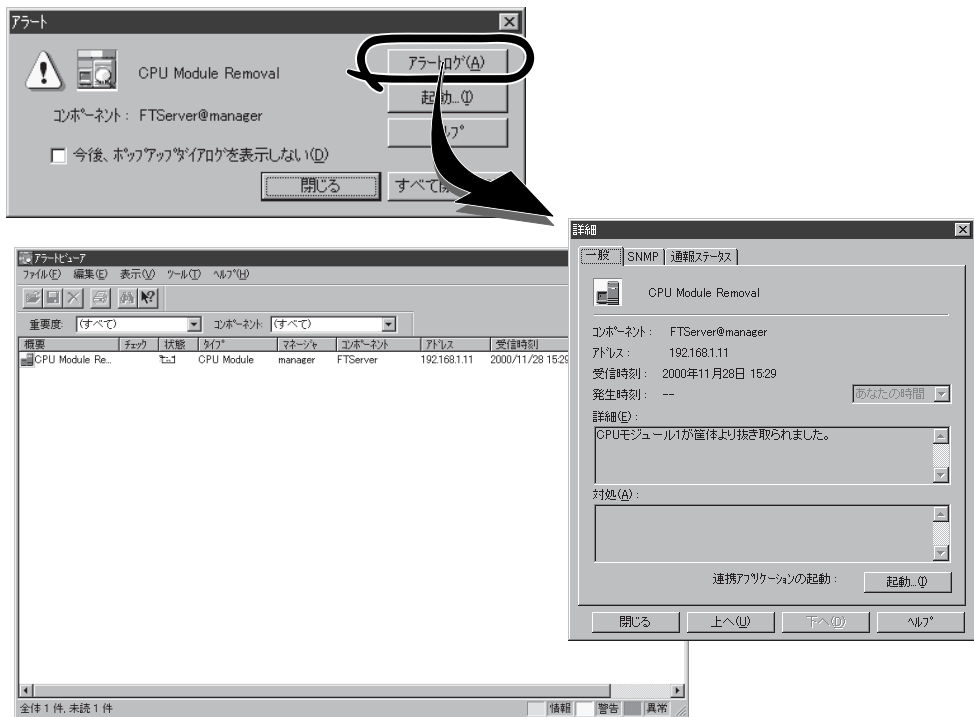
その他にもExpress5800/ftサーバのF/W、BIOSをオンライン(システムは継続稼動しているが、F/W、BIOSをアップデートする対象コンポーネントは停止している状態)で更新する機能や特定のコンポーネントを停止する機能などの保守機能をESMPROでサポートします。

次にESMPROおよびシステム機能を利用したExpress5800/ftサーバ管理タスクを示します。

ftサーバ管理タスク	ESMPRO機能またはツール (被管理ftサーバ上) *	ESMPRO機能またはツール (管理マネージャ上)
主要コンポーネントの状態監視	—	ESMPRO/ServerManager データビューア
主要コンポーネントの診断、起動・停止、F/W更新	ESMPRO/ServerAgent ftサーバユーティリティ	ESMPRO/ServerManager データビューア
BMC F/Wアップデート	ESMPRO/ServerAgent BMC F/Wアップデートユーティリティ	—
アラートの確認または障害発生イベント情報の確認	—	ESMPRO/ServerManager アラートビューア
H/Wエラーログの確認	—	ESMPRO/ServerManager ESRASユーティリティ

また、Express5800/ftサーバで発生した障害に関する通報(アラート)は、ただちにESMPRO/ServerManagerに送られます。ESMPRO/ServerManager側では、アラートを受信したときにポップアップが表示されます。

アラートには障害の詳細な情報とその対処が含まれており、発生したアラートに対して適切に対処できます。



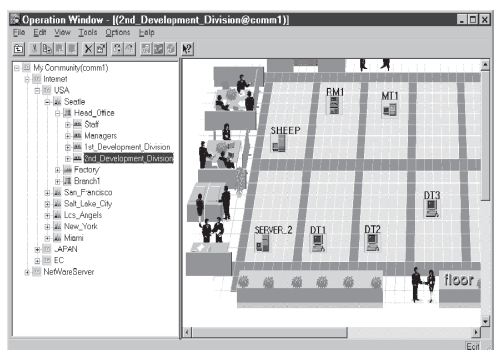
分散したサーバの一括管理

ESMPRO/ServerManagerが提供する優れたGUIにより、ネットワーク上のサーバを一括管理できます。管理画面はエクスプローラ形式になっておりサーバの各構成要素を階層的に表示するので、効率よくサーバを管理できます。

ESMPRO/ServerManagerでは、次の3種類のGUIを利用してサーバを管理します。

- オペレーションウィンドウ

ネットワーク上に接続されているサーバのマップを作成し管理します。マップは、設置場所、組織、目的などにより階層化できます。



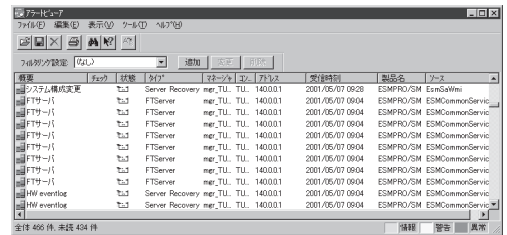
● データビューア

サーバリソースの構成情報をエクスプローラ形式で表示します。また、異常となったサーバの構成要素の状態色を変化させることにより、障害箇所を容易に特定できます。



● アラートビューア

各サーバの障害通報を一元管理します。サーバで発生した障害は、ただちにアラートビューアに通報されます。管理者はネットワーク上のあらゆる障害をいち早く認識できます。



ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは、Express5800/ftサーバとESMPRO/ServerManager(管理PC)との間でエージェント(代理人)の役割をするユーティリティです。

動作環境

ESMPRO/ServerAgentを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次の通りです。

- **ハードウェア** 本書で説明しているExpress5800/ftサーバ
- **ソフトウェア** 以下のパッケージが必要です。
 - ucd-snmp
 - newt
 - slang
 - portmap

注意・制限事項

ESMPRO/ServerAgentを利用する上での注意・制限事項を以下に示します。

OSの仕様により情報が取得できないものは、ESMPRO/ServerManagerのデータビューアで「不明」と表示されることがあります。また、OSの仕様によって正しい情報が取得できないものは、データビューアに正しい情報が表示されないことがあります。

セットアップを始める前に

インストールならびにセットアップの前に必ずお読みください。

必要なパッケージの確認

ESMPRO/ServerAgentを使用するためには以下のパッケージが必要です。

- ucd-snmp
- newt
- slang
- portmap



これらのパッケージがインストールされている状態でESMPRO/ServerAgentをインストールしてください。

portmapの起動

ESMPRO/ServerAgentのインストールはportmapが起動している状態で行います。ESMPRO/ServerAgentのインストールを行う以前に、portmapが起動していることを確認してください。起動していない場合は、起動させてください。

portmapの起動の手順は、以下のとおりです。

- /sbin/chkconfig portmap on
- /etc/rc.d/init.d/portmap start



portmapが起動していないと、ESMPRO/ServerAgentを正しくインストールできません。

SNMPサービスの設定

ESMPRO/ServerAgentを使用するためには、SNMPサービスの設定が必要です。

● SNMPサービスのインストール

ESMPRO/ServerAgentのインストールを行う前に、SNMPサービスをインストールしてください。



ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に、ucd-snmpパッケージを再インストールした場合は、ESMPRO/ServerAgentの再インストールが必要になります。

● SNMPサービスの環境設定

ESMPRO/ServerManagerから監視する場合は、SNMP環境設定ファイル(/etc/snmp/snmpd.conf)を変更して、コミュニティの権利を「READ WRITE」以上に設定する必要があります。

以下の例を参考にして運用環境に合った設定をしてください。

各設定内容の詳細については、SNMPのオンラインヘルプを参照してください。

```
####
# Third, create a view for us to let the group have rights to:
#      name          incl/excl    subtree      mask(optional)
view   all           included    .1           80

####
# Finally, grant the group read-only access to the systemview view.
#      group          context sec.model sec.level prefix read  write  notif
access notConfigGroup ""      v1      noauth    exact  all    all    none
```

インストール

ESMPRO/ServerAgentのインストールには、インストールの方法により次の2つの方法があります。

新規インストール手順

1. root権限のあるユーザーでログオンする。

2. 添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

3. 以下のコマンドを入力してCD-ROMをマウントする。

ここではマウントポイントを「/mnt/cdrom」として説明します。

```
mount /mnt/cdrom
```

4. セットアッププログラムがあるディレクトリへ移動する。

```
cd /mnt/cdrom/nec/Linux/esmpro_sa
```

5. セットアッププログラムを実行する。

```
./ESMinstall
```

セットアッププログラムが起動し、次のメニューを表示します。

```
1) Install
2) UnInstall
3) Exit
```

6. メニューの「1」を選択する。

「3」を選択するとインストールを行わずに終了します。

ESMPRO/ServerAgentをインストールするディレクトリの入力を促すメッセージが表示されません。

```
ESMPRO_SA_DIR==>
```

7. 任意のディレクトリを指定する。

何も入力せずに<Enter>キーを押すと以下のディレクトリにインストールします。

```
/opt/nec/esmpro_sa
```

重要

インストールディレクトリを入力する場合は、/で始まるフルパスで指定してください。また、/を指定しないでください。

インストール終了のメッセージが表示されます。

8. システムを再起動する。

インストールしたESMPRO/ServerAgentの機能は再起動後に有効になります。

重要

ESMPRO/ServerAgentからESMPRO/ServerManagerに通報を行うためには、再起動後に「通報設定機能」で通報手段の設定をする必要があります。通報手段の設定については、この後の説明を参照してください。

以上でインストールが終了します。

更新インストール手順

1. root権限のあるユーザーでログオンする。
2. 添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
3. 以下のコマンドを入力してCD-ROMをマウントする。
ここではマウントポイントを「/mnt/cdrom」として説明します。

```
mount /mnt/cdrom
```
4. セットアッププログラムがあるディレクトリへ移動する。

```
cd /mnt/cdrom/nec/Linux/esmpro_sa
```
5. セットアッププログラムを実行する。

```
./ESMinstall
```

セットアッププログラムが起動し、次のメニューを表示します。

 - 1) Install
 - 2) UnInstall
 - 3) Exit
6. メニューの「1」を選択する。
「3」を選択するとインストールを行わずに終了します。
次のメニューを表示します。
 - 1) Rebuild data
 - 2) Keep Current Setting
 - 3) Exit
7. 現在の設定を残したまま更新インストールを行う場合は「2」を、すべての設定をクリアした状態で更新インストールを行う場合は、「1」を選択する。
「3」を選択するとインストールを行わずに終了します。
8. システムを再起動する。
インストールしたESMPRO/ServerAgentの機能は再起動後に有効になります。

重要

すべての設定をクリアした状態で更新インストールをした場合は、ESMPRO/ServerAgentからESMPRO/ServerManagerに通報を行うために、再起動後に「通報設定機能」で通報手段の設定をする必要があります。通報手段の設定については、この後の説明を参照してください。

以上でインストールが終了します。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

次の説明に従ってESMPRO/ServerAgentをセットアップします。

監視機能

インストールされたESMPRO/ServerAgentの各種設定は出荷時の設定のままです。コントロールパネルで、使用する環境に合わせて設定してください。

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. ESMPRO/ServerAgentがインストールされているディレクトリに移動する。
特に指定していない場合は「/opt/nec/esmpro_sa」にインストールされています。
ここでは「/opt/nec/esmpro_sa」にインストールされているとして説明します。

```
cd /opt/nec/esmpro_sa
```

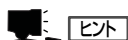
3. コントロールパネルが格納されているディレクトリに移動する。

```
cd bin
```

4. コントロールパネルを起動する。

```
./ESMagntconf
```

コントロールパネルの画面が表示されます。



ヒント

- 設定に関する詳しい説明はESMPRO/ServerAgentのユーザーズガイドを参照してください。

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROM2の以下の場所に格納されています。

```
nec/Linux/esmpro_sa/doc/users.pdf
```

- コントロールパネルで日本語を使用する場合は、コントロールパネルを起動する前に次のコマンドを実行してください。

```
kon  
export LANG=ja
```



通報設定

ESMPRO/ServerAgentからESMPRO/ServerManagerへ通報を行うには、通報手段の設定が必要です。

● マネージャ通報(SNMP)の設定

1. root権限のあるユーザーでログインする。
2. ESMPRO/ServerAgentがインストールされているディレクトリに移動する。
特に指定していない場合は「/opt/nec/esmpro_sa」にインストールされています。
ここでは「/opt/nec/esmpro_sa」にインストールされているとして説明します。

```
cd /opt/nec/esmpro_sa
```

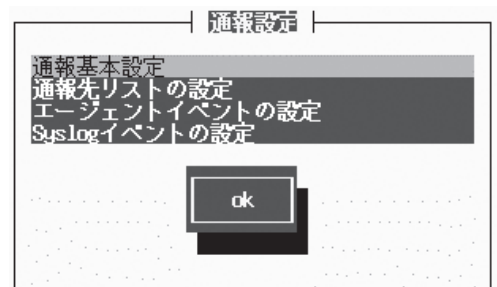
3. 通報設定のツールが格納されているディレクトリに移動する。

```
cd bin
```

4. 通報設定のツールを起動する。

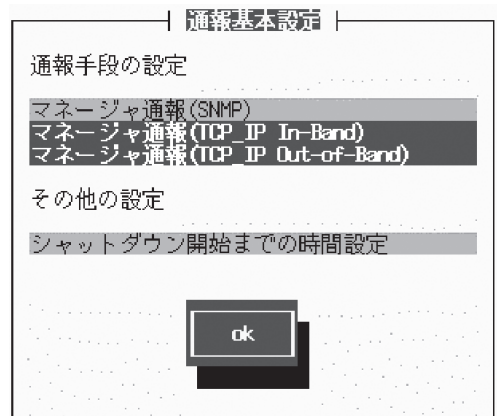
```
./ESMamsadm
```

[通報設定]の画面が表示されます。



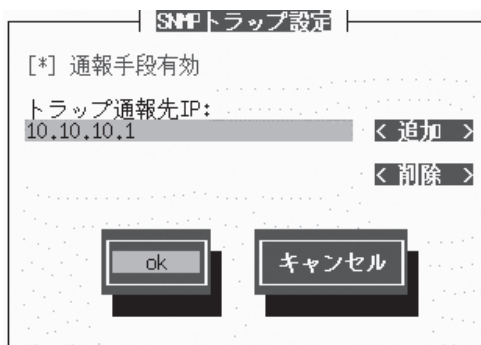
5. [通報基本設定]を選択する。

[通報基本設定]の画面が表示されます。



6. [マネージャ通報(SNMP)]を選択する。

[SNMPトラップ設定]の画面が開きます。



7. [通報先手段]を有効にする。

スペースキーで設定します。チェック時は有効になります。アンチェック時は無効になります。

8. [追加]ボタンをクリックして、[トラップ通報先IP]を設定する。

ESMPRO/ServerManagerがインストールされている装置のIPアドレスを設定します。

9. ツールを終了する。

ESMPRO/SeverManagerにマネージャ通報(SNMP)が行われるようになります。



各設定の詳しい説明や、マネージャ通報(SNMP)以外の通報の設定方法はESMPRO/ServerAgentのユーザーズガイドを参照してください。

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROM2の以下の場所に格納されています。

nec/Linux/esmpro_sa/doc/users.pdf

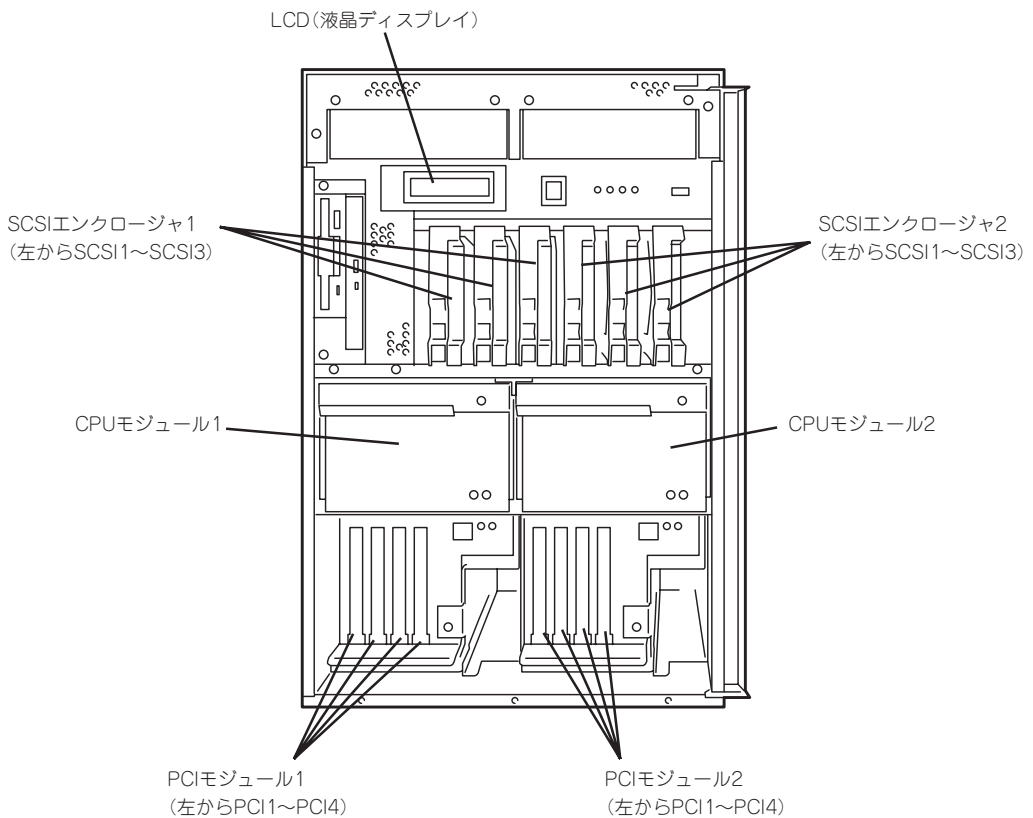
アラート通報内のデバイスIDについて

Express5800/ftサーバの通報には、デバイスを特定する情報として、次のようなデバイスに一意に対応するデバイスIDを使うものがあります。

デバイス名	デバイスID
CPUモジュール1	0
CPUモジュール1上のDIMM1	0/0
CPUモジュール1上のDIMM2	0/1
CPUモジュール1上のDIMM3	0/2
CPUモジュール1上のDIMM4	0/3
CPUモジュール1上のCPU1	0/20
CPUモジュール1上のCPU2	0/21
CPUモジュール1の電源供給部	0/100
CPUモジュール2	1
CPUモジュール2上のDIMM1	1/0
CPUモジュール2上のDIMM2	1/1
CPUモジュール2上のDIMM3	1/2
CPUモジュール2上のDIMM4	1/3
CPUモジュール2上のCPU1	1/20
CPUモジュール2上のCPU2	1/21
CPUモジュール2の電源供給部	1/100
PCIモジュール1	10
PCIモジュール1上のPCI スロット1	10/0
PCIモジュール1上のPCI スロット2	10/1
PCIモジュール1上のPCI スロット3	10/2
PCIモジュール1上のPCI スロット4	10/3
PCIモジュール1上のSCSIアダプタ1	10/5
PCIモジュール1上のSCSIアダプタ1のSCSIバス1	10/5/0
PCIモジュール1上のSCSIアダプタ1のSCSIバス2	10/5/1
PCIモジュール1上のイーサネットボード1	10/6
PCIモジュール1の電源供給部	10/100
PCIモジュール2	11
PCIモジュール2上のPCI スロット1	11/0
PCIモジュール2上のPCI スロット2	11/1
PCIモジュール2上のPCI スロット3	11/2
PCIモジュール2上のPCI スロット4	11/3
PCIモジュール2上のSCSIアダプタ1	11/5
PCIモジュール2上のSCSIアダプタ1のSCSIバス1	11/5/0
PCIモジュール2上のSCSIアダプタ1のSCSIバス2	11/5/1
PCIモジュール2上のイーサネットボード1	11/6
PCIモジュール2の電源供給部	11/100
SCSIエンクロージャ1	41
SCSIエンクロージャ1上のSCSIスロット1	41/1
SCSIエンクロージャ1上のSCSIスロット2	41/2
SCSIエンクロージャ1上のSCSIスロット3	41/3
SCSIエンクロージャ1上のエレクトロニクス1	41/120
SCSIエンクロージャ1上のエレクトロニクス2	41/121
SCSIエンクロージャ1の電源供給部	41/100

デバイス名	デバイスID
SCSIエンクロージャ2	42
SCSIエンクロージャ2上のSCSIスロット1	42/1
SCSIエンクロージャ2上のSCSIスロット2	42/2
SCSIエンクロージャ2上のSCSIスロット3	42/3
SCSIエンクロージャ2上のエレクトロニクス1	42/120
SCSIエンクロージャ2上のエレクトロニクス2	42/121
SCSIエンクロージャ2の電源供給部	42/100

Express5800/320La、Express5800/320La-RでのESMPROの表示とデバイスの位置について示します。下図はタワーモデルを示します。ラックマウントモデルとは向きが異なるだけです。



補足説明

ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合は、次の点について確認してください。

二重に通報されるメッセージについて

モジュールの状態遷移に関する通報が二重に通報される場合があります。

サポート対象のデバイスについて

SCSIエンクロージャ、SCSIエレクトロニクス、SCSIスロット、SCSIバスは本バージョンではサポートしていません。ただし、ディスク障害に関するマネージャ通報は行われますのでアラートビューアで確認することはできます。

保守作業にかかわる機能の実行について

Express5800/ftサーバの保守作業に関わる機能を実行する場合は、保守員に連絡してください。

各デバイスの情報について

未サポート項目については、データビューアに「不明」と表示されます。

ESMPRO/ServerManagerのバージョンについて

Linuxがインストールされている装置を監視するためには、バージョン3.81以降のServerManagerが必要です。本装置添付のEXPRESSBUILDERのCD-ROMに登録されているServerManagerを利用していただくようお願いします。

Ethernetボードの状態表示について

PCIモジュール起動時にEthernetボードの状態が一時的に「故障」と表示されることがありますが、その後でSIMPLEXまたはDUPLEXなどの正常状態になっている場合は、故障ではありません。

CPUモジュール/PCIモジュールの実装状態の変更について

データビューアによりサーバ情報を参照中に、当該システムのCPUモジュールまたはPCIモジュールの構成を動的に変更した場合、データビューアのツリーの再構築を促すメッセージが表示されます。[はい]ボタンをクリックするとデータビューアでツリーの再構築を行い、システムの構成変更がデータビューア上に反映されます。[いいえ]ボタンをクリックすると、データビューアのツリーの再構築は行われません。その場合、システムの構成変更が反映されないため、データビューアの情報とは現在のシステムの情報と異なる可能性があります。

LAN監視の通報について

LAN監視機能では一定時間内の送受信パケット数とパケットエラー数により回線の状態を判断するため、一時的な回線高負荷状態の場合にも回線障害や回線高負荷を通報することがあります。

すぐに状態回復が通報される場合は一時的な回線高負荷が発生したと考えられますので、特に問題はありません。

LAN監視のしきい値について

Express5800/ftサーバでは、ネットワークのハードウェア障害はドライバレベルで検出するので ESMPRO/ServerAgentでは回線障害を監視しません。そのため、コントロールパネルの[ESMPRO ServerAgentのプロパティ]の[LAN]タブの「回線障害発生割合」の設定値は使用されません。

MTBFの現在値について

デバイスに故障が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerのデータビューアにMTBFの現在値が正しく表示されません。

BIOSとの温度監視連携について

温度監視についてESMPRO/ServerAgentとBIOSが連携し、装置周辺温度センサのBIOS側の温度異常しきい値とESMPRO/ServerAgent側の温度異常しきい値を同一に保ちます。これにより一方のしきい値が変更されると自動的に他方に反映されます。



ACPI機能を持つOSの場合、BIOS側の温度異常しきい値はOSによって管理されるACPI機能と連携します。そのため、ESMPRO/ServerAgentの温度異常しきい値は温度連携を行うことなく独立した値を持ちます。

また、以下のいずれかの操作を行うことでESMPRO/ServerAgentによる温度監視を無効にすることができます。

- BIOS側の温度監視の設定をEnableからDisableに変更し、設定を保存してBIOSのSETUPを終了する
- BIOS側の温度監視の設定がすでにDisableになっている状態で(特に設定を変更していないときでも)設定を保存してBIOSのSETUPを終了する

BIOS側がDisableになっている状態でもESMPRO/ServerAgent側の温度監視はESMPRO/ServerManagerからEnableに戻すことができます。

BIOS側の温度監視の設定は次の手順で変更できます。

- ① システムを起動し、「NEC」のロゴが表示されたら、<Esc>キーを押す。
- ② 画面に「Press <F2> to enter SETUP」と表示されている間に<F2>キーを押す。
BIOSのSETUPユーティリティを起動します。
- ③ 「System Hardware」メニューから「Thermal Sensor」を選択する。
- ④ 設定を変更後、内容を保存してSETUPユーティリティを終了する。

メモリエラーのアラームについて

メモリエラーのアラームがトラップとしてマネージャへ通報される場合に、マネージャ側のアラートビューアのバンクIDの欄が空白になります。ESMPRO/ServerAgent側のsyslog内に同アラームに関する情報が格納されています。その内容を確認し保守員に連絡してください。

しきい値について

ESMPRO/ServerManagerからファン／電圧監視などのしきい値の表示／設定を行えないものがありますが、ESMPRO/ServerAgentは監視を行っており、異常が発生した場合はアラートを発生します。

アラートについて

アラートビューアで表示されるアラートの詳細情報は、アラートによって一部の情報が「不明」と表示されるものがあります。

CPU負荷監視の警告メッセージについて

システムの一時的なリソース不足や高負荷率などが原因で、OSからパフォーマンス情報が取得できないことを検出した場合にESMPRO/ServerAgentでは以下のsyslogメッセージを登録致しますが、システムの運用に特に問題はありません。

ソース	:	ESMCpuPerf
種類	:	情報
イベントID	:	9005
説明	:	システムのパフォーマンス情報が取得できない状態です (Code=xxxx)

なお、情報が取得できない場合には、負荷率は0%として扱うため、連続して情報が取得できない事象が発生した場合、CPU負荷率は実際値よりも低く表示される場合があります。

ftサーバユーティリティでのプライマリPCIモジュールの停止について

ftサーバユーティリティでプライマリPCIモジュールを停止した際に、ftサーバユーティリティの画面が見づらくなることがありますが機能には問題ありません。

ftサーバユーティリティでのダンプ採取について

ftサーバユーティリティでダンプ機能を実行した際に、ftサーバユーティリティの画面上にドライバが出力するダンプに関するメッセージが上書きされ、見づらくなることがありますが機能には問題ありません。

アンインストール

次の手順に従ってESMPRO/ServerAgentをアンインストールします。

1. root権限のあるユーザーでログオンする。
2. 添付のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
3. 以下のコマンドを入力してCD-ROMをマウントする。
ここではマウントポイントを「/mnt/cdrom」として説明します。

```
mount /mnt/cdrom
```
4. セットアッププログラムがあるディレクトリへ移動する。

```
cd /mnt/cdrom/nec/Linux/esmpro_sa
```
5. セットアッププログラムを実行する。

```
./ESMinstall
```

セットアッププログラムが起動し、次のメニューを表示します。

 - 1) Install
 - 2) UnInstall
 - 3) Exit
6. キーボードから「2」を選択する。
「3」を選択するとアンインストールせずに終了します。
アンインストールを開始し、完了するとメッセージが表示されます。

以上でアンインストールが終了します。

ESMPRO/ServerManager

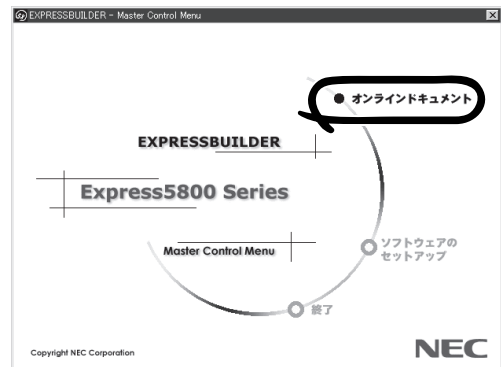
ESMPRO/ServerAgentがインストールされたExpress5800/ftサーバの運用と管理は管理PCからESMPRO/ServerManagerを使用して行います。

インストールと運用上の注意事項

ESMPRO/ServerManagerを使用するために必要な動作環境、インストールの方法、および運用時の注意事項については、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」にあるオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManager Ver.3.8 インストールガイド」をご覧ください。

オンラインドキュメントは、EXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューから表示させることができます。

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」上の「オンラインドキュメント」をクリックしてください。



オンラインドキュメントは、Adobe Acrobat Reader Ver.4.0以降で読むことができます。

データビューアを使った監視

ESMPRO/ServerManagerをインストールした管理用のコンピュータからExpress5800/ftサーバの状態を監視するには、「データビューア」を使用します。データビューアはWindows エクスプローラ形式のツリービューから各モジュール、確認したい項目の順番にクリックすることで右側の画面に状態を表示します。

ここでは、データビューア内のツリー構成と表示される画面について説明します。

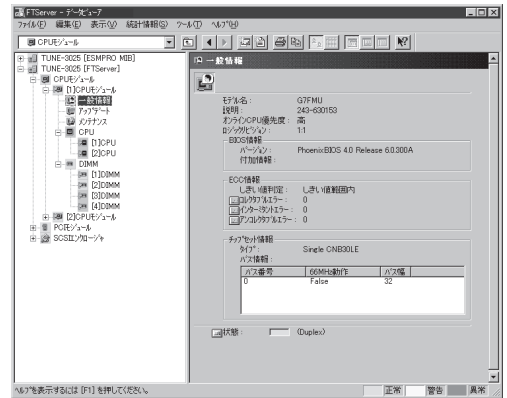
各モジュールおよびモジュール上のコンポーネントを状態をデータビューアで表示させるには、ESMPRO/ServerManagerから監視対象サーバを選択してからデータビューアを起動してください(以下、データビューアの起動に関する記述は省略します)。

CPUモジュールの監視

CPUモジュールおよびCPUモジュール上のコンポーネントを監視するには、[CPUモジュール]ツリーを参照してください。[CPUモジュール]ツリーの情報を参照するには、[FTServer]ツリーで[CPUモジュール]から対象のCPUモジュールを選択します。[CPUモジュール]ツリーでは、CPUモジュールおよびCPUモジュール上のコンポーネントの次の情報を参照できます。

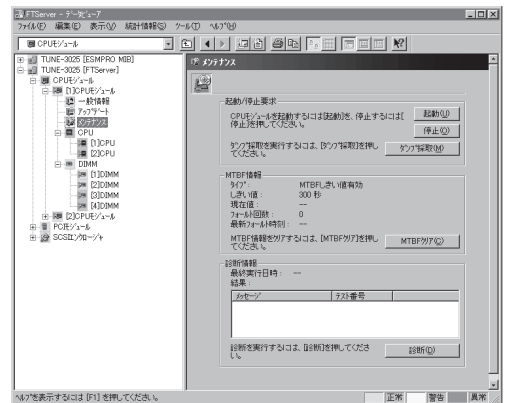
● 一般情報

CPUモジュールのコンフィグレーション情報などを参照できます。



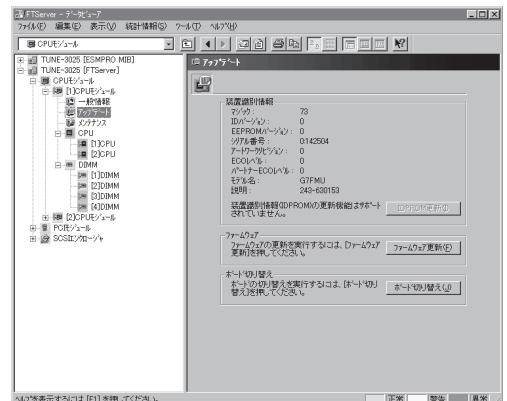
● メンテナンス

CPUモジュールの起動・停止、MTBF情報のクリア、ダンプ採取ができます。CPUモジュールの起動と停止、MTBF情報のクリアについては、この後の「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



● アップデート

CPUモジュールの装置識別情報の参照ができます。より詳しい装置識別情報については、[ESMPRO MIB]ツリー→[ハードウェア]ツリー→[装置識別情報]ツリーで確認できます。



- CPU

CPUモジュール上のCPUに関する情報を参照できます。



- DIMM

CPUモジュール上のDIMMに関する情報を参照できます。



PCIモジュールの監視

PCIモジュールおよびPCIモジュール上のコンポーネントを監視するには、[PCIモジュール] ツリーを参照してください。[PCIモジュール]ツリーの情報を参照するには、[FTServer] ツリーで[PCIモジュール]から対象のPCIモジュールを選択します。

[PCIモジュール]ツリーでは、PCIモジュールおよびPCIモジュール上のコンポーネントの次の情報を参照できます。

(ここでは、PCIモジュールの一般情報画面などを説明します。PCIモジュール上のコンポーネントについては次ページで説明します。)

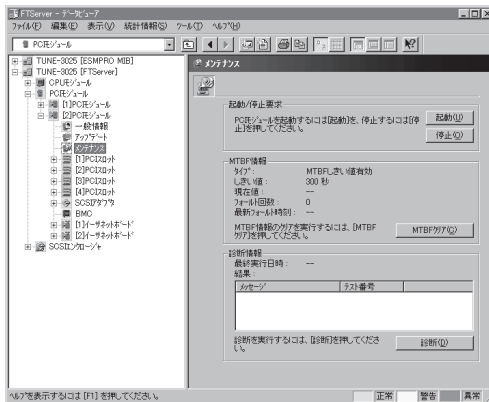
● 一般情報

PCIモジュールのコンフィグレーション情報などを参照できます。



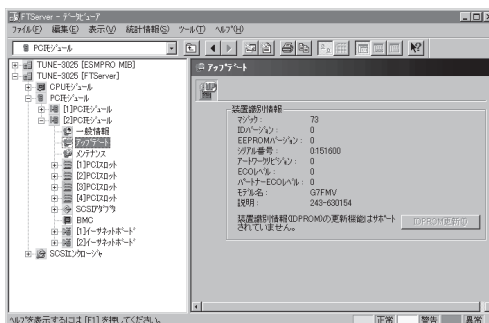
● メンテナンス

PCIモジュールの起動・停止、MTBF情報の参照・クリアができます。PCIモジュールの起動と停止、MTBF情報のクリアについてはこの後の「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



● アップデート

PCIモジュールの装置識別情報を参照できます。より詳しい装置識別情報については、[ESMPRO MIB]ツリー→[ハードウェア]ツリー→[装置識別情報]ツリーで確認できます。



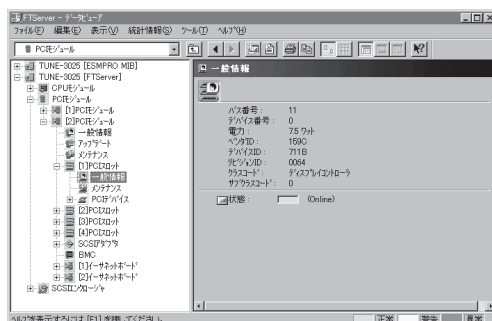
PCIモジュール上のPCIスロット/PCIデバイス監視

PCIモジュール上のPCIスロット/デバイスを監視するには、[PCIスロット]ツリーを参照してください。[PCIスロット]ツリーの情報を参照するには、[FTServer]ツリーで[PCIモジュール]→[参照するPCIスロットが存在するPCIモジュール]→[PCIスロット]を選択してください。

[PCIスロット]ツリーでは、PCIスロットおよびスロット上のデバイスの次の情報を参照できます。

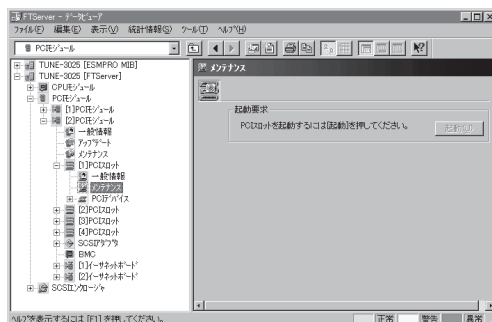
● 一般情報

PCIスロットのコンフィグレーション情報などを参照できます。



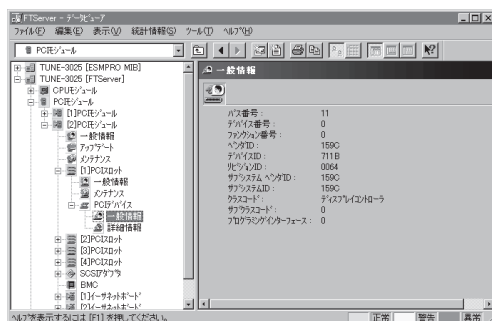
● メンテナンス

PCIスロット上のデバイスを起動できません。ただし、現在のバージョンではこの機能はサポートされていません。



● PCIデバイス - 一般情報

PCIスロット上のデバイスに関する情報を参照できます。



● PCIデバイス - 詳細情報

PCIスロット上のデバイスの詳細情報を参照できます。



PCIモジュール上のSCSIアダプタ監視

PCIモジュール上のSCSIアダプタを監視するには、[SCSIアダプタ]ツリーを参照してください。[SCSIアダプタ]ツリーの情報参照するには、[FTServer]ツリーで[PCIモジュール]→[参照するSCSIアダプタの接続されているPCIモジュール]→[SCSIアダプタ]を選択してください。

[SCSIアダプタ]ツリーでは、SCSIアダプタの次の情報を参照できます。

● 一般情報

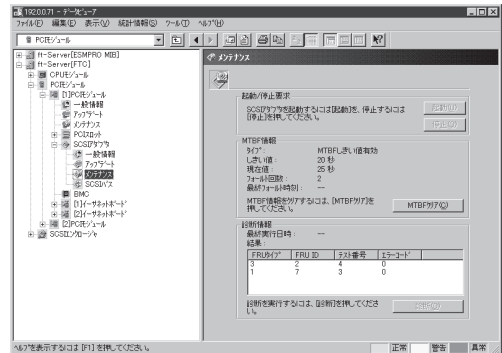
SCSIアダプタのコンフィグレーション情報などを参照できます。



● メンテナンス

SCSIアダプタのMTBF情報の参照とクリアを行えます。

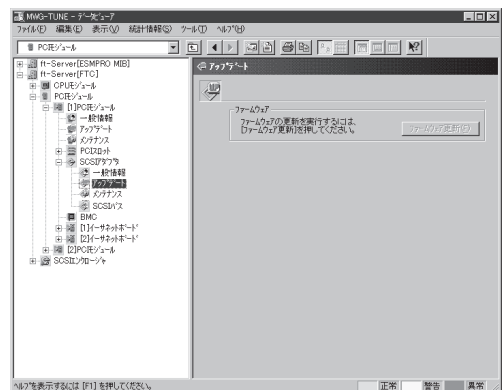
SCSIアダプタのMTBF情報のクリアについてはこの後の「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



● アップデート

SCSIアダプタのファームウェアを更新できます。

ただし、現在のバージョンではこの機能はサポートされていません。

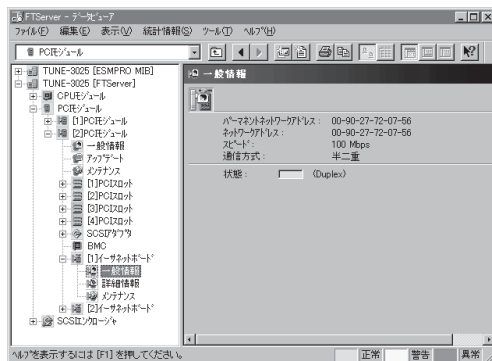


PCIモジュール上のイーサネットアダプタの監視

PCIモジュール上のイーサネットアダプタを監視するには、[イーサネットアダプタ]ツリーを参照してください。[イーサネットアダプタ]ツリーの情報を参照するには、[FTServer]ツリーで[PCIモジュール]→[参照するイーサネットアダプタの接続されているPCIモジュール]→[イーサネットアダプタ]を選択してください。[イーサネットアダプタ]ツリーでは、イーサネットアダプタの次の情報を参照できます。

● 一般情報

イーサネットアダプタのコンフィグレーション情報などを参照できます。



● 詳細情報

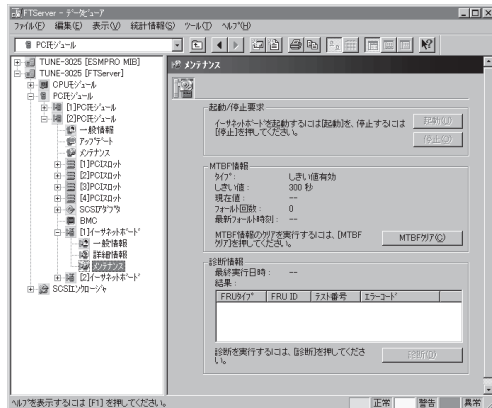
イーサネットアダプタの詳細統計情報などを参照できます。



● メンテナンス

イーサネットアダプタのMTBF情報の参照とクリアを行えます。

イーサネットアダプタのMTBF情報のクリアについてはこの後の「Express5800/ftサーバの保守作業」を参照してください。



Express5800/ftサーバの保守作業

Express5800/ftサーバの保守作業は、ESMPRO/ServerManagerを使ってリモートから実行する方法とExpress5800/ftサーバ上でESMPRO/ServerAgent ftサーバユーティリティを使ってローカルに実行する方法の2つの方法をサポートしています。



- Express5800/ftサーバにインストールされたESMPRO/ServerAgent ftサーバユーティリティの起動方法は次のとおりです。

1. ESMPRO/ServerAgentのインストール先に移動する。

特にインストール先を指定していない場合は、/opt/nec/esmpro_saがインストール先になります。ここでは、インストール先を/opt/nec/esmpro_saとして説明します。

```
cd /opt/nec/esmpro_sa
```

2. ftサーバユーティリティの格納場所へ移動する。

```
cd bin
```

3. ツールを起動する。

```
./ESMftcutil
```

- ftサーバユーティリティで日本語を使用する場合は、ftサーバユーティリティを起動する前に次のコマンドを実行してください。

```
kon  
export LANG=ja
```

ESMPROから実行できる保守機能にはコンポーネントに共通するもの、特定のコンポーネントに固有のもの、システムの全般的な設定の3種類があります。

コンポーネントに共通の保守機能は、操作方法は基本的に同じです(この項では操作方法と代表的な画面イメージ例を説明します)。

Express5800/ftサーバのコンポーネントとESMPROから実行できる各コンポーネント共通保守機能の対応(サポート状況)は次のとおりです。

コンポーネント	起動		停止		MTBF クリア		診断		F/W更新	
	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
CPUモジュール	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
PCIモジュール	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
PCIスロット	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
イーサネットアダプタ	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—
SCSIアダプタ	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—

R: Remote. ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

L: Local. ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

○: サポート

—: 未サポート

Express5800/ftサーバのコンポーネントとESMPROから実行できるコンポーネント固有保守機能の対応関係(サポート状況)は次のとおりです。

コンポーネント	ダンプ採取		システム動作中にダンプ採取		ボードの切り替え	
	R	L	R	L	R	L
CPUモジュール	—	○	○	○	—	—

R: Remote. ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

L: Local. ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

○: サポート

—: 未サポート

コンポーネント	BMCファームウェア更新	
	R	L
BMC	—	○

R: Remote. ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

L: Local. ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

○: サポート

—: 未サポート

システムの全般的な設定機能(サポート状況)は次のとおりです。

コンポーネント	クイックダンプ		ファームウェア自動更新		モジュール自動起動	
	R	L	R	L	R	L
システム全般	—	—	—	—	—	—

R: Remote. ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

L: Local. ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

○: サポート

—: 未サポート

コンポーネントの起動と停止

コンポーネントの起動と停止を行うことができます。

ESMPRO/ServerManagerからコンポーネントの起動/停止を行う場合は、データビューアの[FTServer]ツリーの各コンポーネントの[メンテナンス]ツリーで行えます。起動/停止を行うコンポーネントのツリーを開き、[メンテナンス]ツリーを選択してください。

ftサーバユーティリティから起動/停止を行う場合は、ユーティリティ画面の各コンポーネント画面で行えます。

各コンポーネントに対して、起動または停止を実行する一般的なケースは以下のとおりです。

コンポーネント	起動		停止	
	Remote	Local	Remote	Local
CPU モジュール	<p>モジュール停止状態時に、停止原因を確認し再起動する場合</p> <p>モジュールの状態が以下の場合に実行可能（マネージャ画面で確認可能）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源供給停止 ・故障 ・強制停止 ・ファームウェア更新完了 ・診断結果問題なし 	<p>モジュール停止状態時に、停止原因を確認し再起動する場合</p> <p>モジュールの状態が以下の場合に実行可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LED赤色のみ点灯 <p>LEDが赤色のみ点灯している状態は以下のいずれかの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源供給停止 ・故障 ・強制停止 ・ファームウェア更新完了 ・診断結果問題なし 	<p>モジュール交換時、または動作不良のため強制的に停止させる場合</p> <p>モジュールの状態が以下の場合に実行可能（マネージャ画面で確認可能）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Duplex 	<p>モジュール交換時、または動作不良のため強制的に停止させる場合</p> <p>モジュールの状態が以下の場合に実行可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LED緑色のみ点灯でかつ冗長構成状態 <p>両方のモジュールのLEDが緑色のみ点灯でしている状態は以下のいずれかの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Duplex
PCIモジュール	同上	同上	同上	同上

Remote: ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

Local: ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

— :未サポート

ESMPRO/ServerManagerでの手順

● 起動

1. [FTServer]ツリーで対象コンポーネントを選択する。
2. 対象コンポーネント画面の「状態」表示で現在の状態を確認する。
3. 対象コンポーネントの[メンテナンス]画面で[起動]ボタンをクリックする。

起動にはある程度の時間が必要です。

起動結果は、対象コンポーネント画面の「状態」で確認できます。また、起動実行の結果がExpress5800/ftサーバからアラートとして通報されます。

● 停止

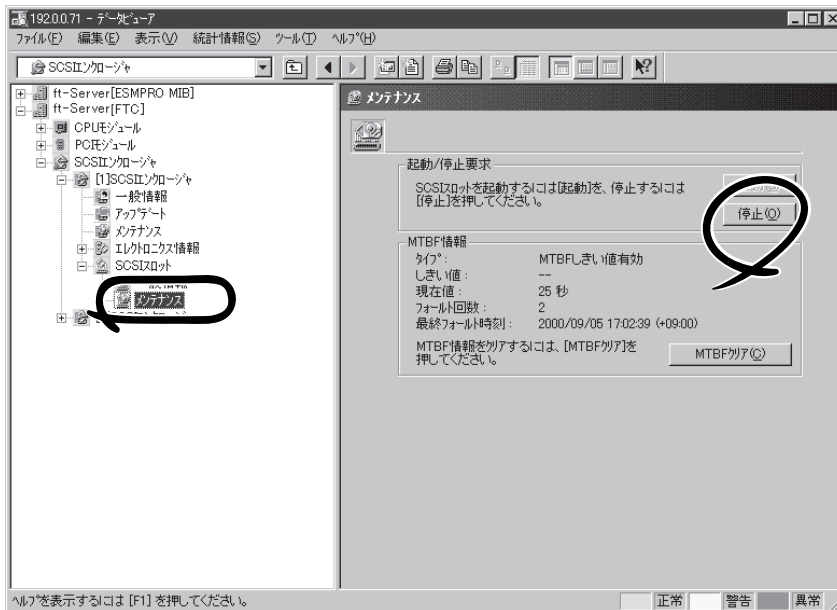
コンポーネントを交換する前に実行してください。

1. [FTServer]ツリーで対象コンポーネントを選択する。
2. 対象コンポーネント画面の「状態」表示で現在の状態を確認する。
3. 対象コンポーネントの[メンテナンス]画面で[停止]ボタンをクリックする。

停止にはある程度の時間が必要です。

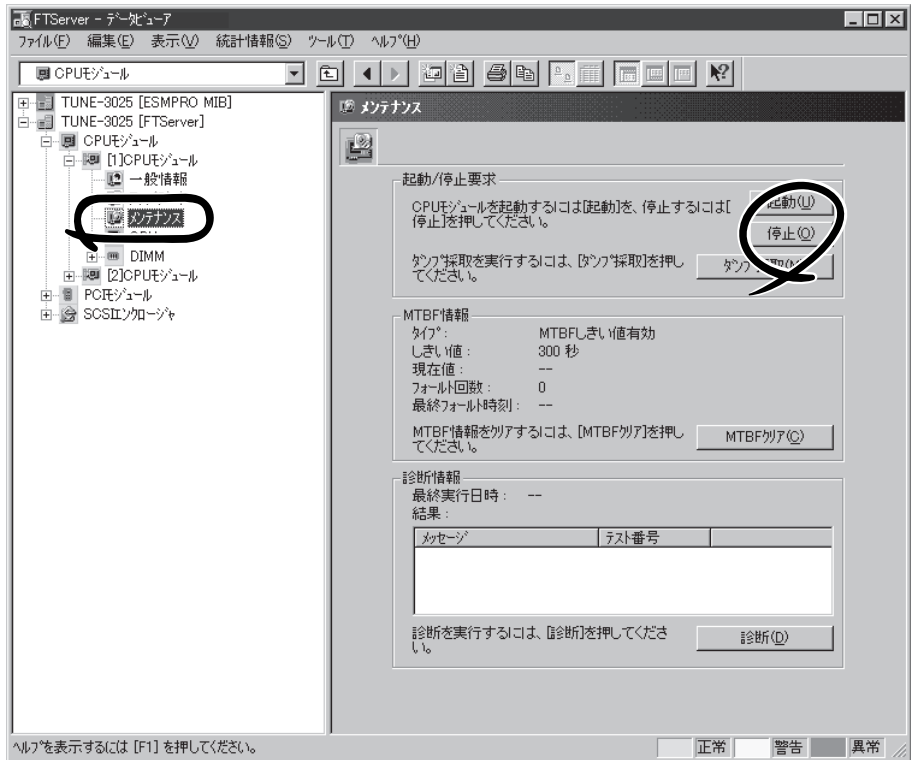
停止結果は、対象コンポーネント画面の「状態」で確認可能できます。また、停止実行の結果がExpress5800/ftサーバからアラートとして通報されます。

ESMPRO/ServerManagerの画面例1



SCSIスロットの[メンテナンス]ツリーとメンテナンス画面
[SCSIエンクロージャ] - [SCSIスロット] - [メンテナンス]

ESMPRO/ServerManagerの画面例2



CPUモジュールの[メンテナンス]画面
[CPUモジュール] - [メンテナンス]

ftサーバユーティリティでの手順

● 起動

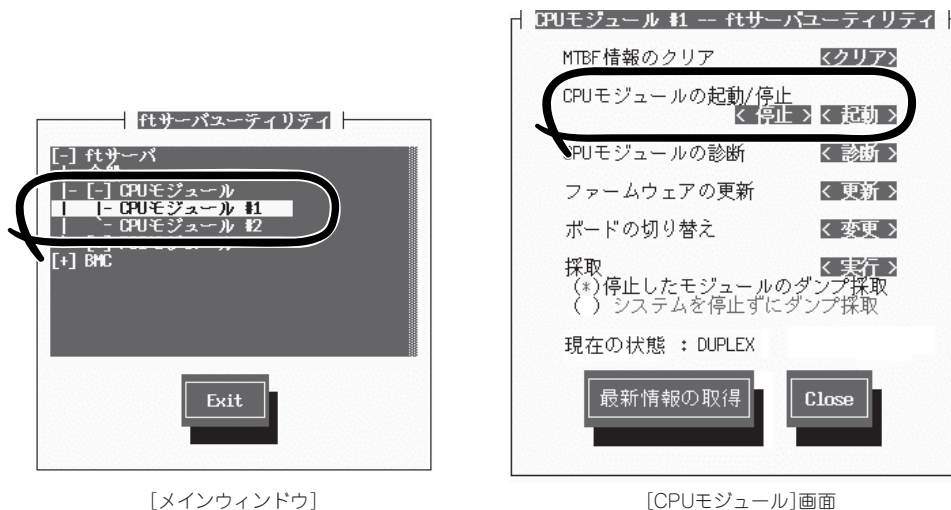
1. ftサーバユーティリティのメインウィンドウで対象コンポーネントを選択する。
対象コンポーネントの画面が表示されます。
2. 対象コンポーネントのランプ表示で現在の状態を確認する。
3. [起動]ボタンを選択する。
起動にはある程度の時間が必要です。
起動結果は、対象コンポーネントのランプ表示で確認できます。また、起動実行の結果がsyslogに登録されます。

● 停止

コンポーネントを交換する前に実行してください。

1. ftサーバユーティリティのメインウィンドウで対象コンポーネントを選択する。
対象コンポーネントの画面が表示されます。
2. 対象コンポーネントのランプ表示で現在の状態を確認する。
3. [停止]ボタンを選択する。
停止にはある程度の時間が必要です。
停止結果は、対象コンポーネントのランプ表示で確認できます。また、停止実行の結果がsyslogに登録されます。

ftサーバユーティリティの画面例



MTBF情報の参照とクリア

コンポーネントのMTBF情報の参照とクリア(初期化)を行うことができます。

Express5800/ftサーバではハードウェアコンポーネントのMTBF(平均故障時間)を管理します。コンポーネントで障害が発生した際にMTBFを再度計算し、あらかじめ決められたしきい値を下回った場合は該当するコンポーネントの使用を中止(disable)します。上記のような症状が起きた場合は保守員に相談してください。

重要 MTBFがしきい値を下回り、使用が中止されたコンポーネントであっても、MTBFをクリアすれば強制的に使用を再開(enable)させることができます。ただし、強制的に使用する際は、保守員に相談してください。

ESMPRO/ServerManagerからコンポーネントのMTBF情報のクリアを行う場合は、データビューアの[FTServer]ツリーの各コンポーネントの[メンテナンス]ツリーで行えます。MTBF情報のクリアを行うコンポーネントのツリーを開き、[メンテナンス]ツリーを選択してください。

ftサーバユーティリティからMTBF情報のクリアを行う場合は、ユーティリティ画面の各コンポーネント画面で行えます。

各コンポーネントに対して、MTBF情報のクリアを実行する一般的なケースは以下のとおりです。MTBF情報のクリアを行う場合は、保守員に相談してください。

コンポーネント	MTBFクリア	
	Remote	Local
CPU モジュール	モジュール交換時もしくは動作不良でMTBFがしきい値を下回りモジュールがDisableされた際に強制的にモジュールを起動する場合 モジュールの状態が以下の場合に実行可能(マネージャ画面で確認可能) ・故障 MTBFがしきい値を下回りました	モジュール交換時もしくは動作不良でMTBFがしきい値を下回りモジュールがDisableされた際に強制的にモジュールを起動する場合 モジュールの状態が以下の場合に実行可能 ・LED赤色のみ点灯かつ、イベントログにMTBFを下回ったことを示すイベントが登録されている。
PCIモジュール	同上	同上
イーサネット アダプタ	モジュール/コンポーネント交換時もしくは動作不良でMTBFがしきい値を下回り、モジュール/コンポーネントがDisableされた際に強制的にモジュールを起動する場合 モジュールの状態が以下の場合に実行可能(マネージャ画面で確認可能) ・故障 MTBFがしきい値を下回りました	モジュール/コンポーネント交換時もしくは動作不良でMTBFがしきい値を下回り、モジュール/コンポーネントがDisableされた際に強制的にモジュールを起動する場合 モジュール/コンポーネントの状態が以下の場合に実行可能 ・LED赤色のみ点灯かつ、イベントログにMTBFを下回ったことを示すイベントが登録されている。

Remote: ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

Local: ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

—:未サポート

コンポーネント	MTBFクリア	
	Remote	Local
SCSIアダプタ	<p>モジュール/コンポーネント交換時もしくは動作不良でMTBFがしきい値を下回り、モジュール/コンポーネントがDisableされた際に強制的にモジュールを起動する場合</p> <p>モジュールの状態が以下の場合に実行可能（マネージャ画面で確認可能）</p> <ul style="list-style-type: none"> 故障 MTBFがしきい値を下回りました 	<p>モジュール/コンポーネント交換時もしくは動作不良でMTBFがしきい値を下回り、モジュール/コンポーネントがDisableされた際に強制的にモジュールを起動する場合</p> <p>モジュール/コンポーネントの状態が以下の場合に実行可能</p> <ul style="list-style-type: none"> LED赤色のみ点灯かつ、イベントログにMTBFを下回ったことを示すイベントが登録されている。

Remote: ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

Local: ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

— :未サポート

ESMPRO/ServerManagerでの手順

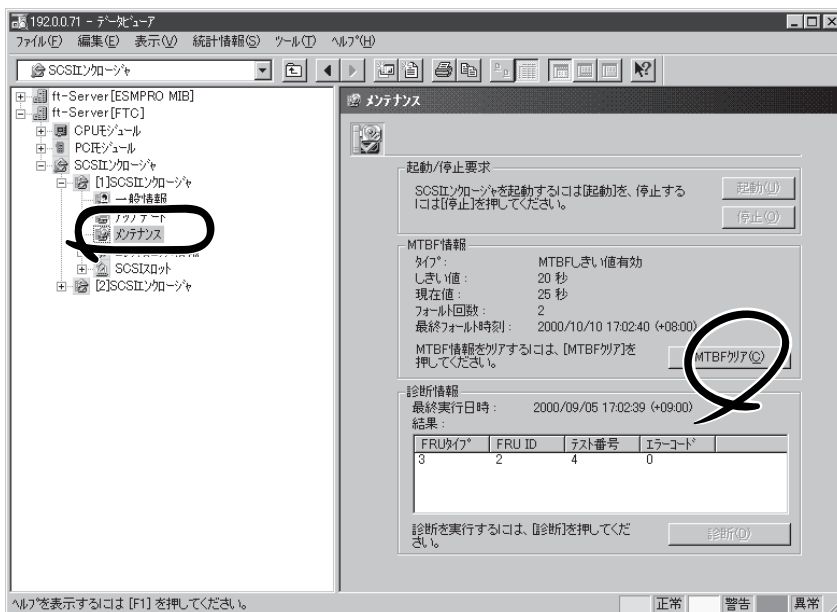
コンポーネントを交換する前に実行してください。

1. [FTServer]ツリーで対象コンポーネントを選択する。
2. 対象コンポーネント画面の「状態」表示で現在の状態を確認する。
3. 対象コンポーネントの[メンテナンス]画面で[MTBFクリア]ボタンをクリックする。

MTBFクリア結果は、対象コンポーネント画面の「状態」で確認できます。また、MTBFクリア実行の結果がExpress5800/ftサーバからアラートとして通報されます。

4. コンポーネントを起動する。

ESMPRO/ServerManagerの画面例



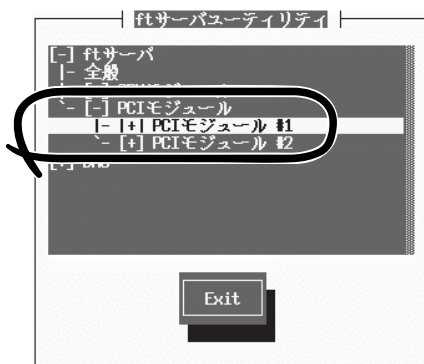
SCSIエンクロージャの[メンテナンス]画面
[SCSIエンクロージャ] - [メンテナンス]

ftサーバユーティリティでの手順

コンポーネントを交換する前に実行してください。

1. ftサーバユーティリティのメインウィンドウで対象コンポーネントを選択する。
対象コンポーネントの画面が表示されます。
2. 対象コンポーネントのランプ表示で現在の状態を確認する。
3. [MTBF情報のクリア]で[クリア]ボタンを選択する。
MTBFクリア結果は、対象コンポーネントのランプ表示で確認できます。また、MTBFクリア実行の結果がsyslogに登録されます。
4. コンポーネントを起動する。

ftサーバユーティリティの画面例



[メインウィンドウ]



[PCIモジュール]画面

ダンプ採取

ダンプの採取を行うことができます。

ESMPRO/ServerManagerからダンプの採取を行う場合は、データビューアの「CPUモジュール」→「メンテナンス」ツリーで行えます。

ftサーバユーティリティからダンプ採取を行う場合は、ユーティリティ画面のCPUモジュール画面で行えます。



ダンプ採取は障害調査の目的でのみ実行してください。

ダンプ採取には2つの方法があります。いずれもダンプファイルは被管理サーバ上のシステムが定めた場所に格納されます。

● 停止中のモジュールのダンプ採取

停止中(故障または強制停止)のCPU モジュールからダンプを採取します。

● システム動作中にダンプを採取する

システム動作中に一方のCPU モジュールがオフラインになりダンプを採取します。採取後、再びオンラインに戻ります。二重化(Duplex)時にのみ実行可能です。

ダンプの採取を実行する一般的なケースは以下のとおりです。

コンポーネント	停止中のモジュールのダンプ採取		システム動作中にダンプ採取	
	Remote	Local	Remote	Local
CPU モジュール	—	<p>システムで障害が発生する場合もしくは動作不良が発生する場合に、保守員より依頼があれば実行する</p> <p>モジュールの状態が以下の場合に実行可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LED赤色のみ点灯 <p>ただし、本機能が動作するのは、「故障」状態時のみそれ以外では実行エラーとなる</p> <p>LEDが赤色のみ点灯している状態は以下のいずれかの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電源供給停止 ・ 故障 ・ 強制停止 ・ ファームウェア更新完了 ・ 診断結果問題なし 	<p>システムで障害が発生する場合、もしくは動作不良が発生する場合に、保守員より依頼があれば実行する</p> <p>モジュールの状態が、以下の場合に実行可能(マネージャ画面で確認可能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Duplex 	<p>システムで障害が発生する場合、もしくは動作不良が発生する場合に、保守員より依頼があれば実行する</p> <p>モジュールの状態が以下の場合に実行可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LED緑色のみ点灯でかつ冗長構成状態 <p>LEDが緑色のみ点灯している状態は以下のいずれかの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Duplex

Remote: ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

Local: ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

— :未サポート

ESMPRO/ServerManagerでの手順

ESMPRO/ServerManagerの「ダンプ採取」ボタンは、「システム動作中にダンプを採取する」機能を実行します。

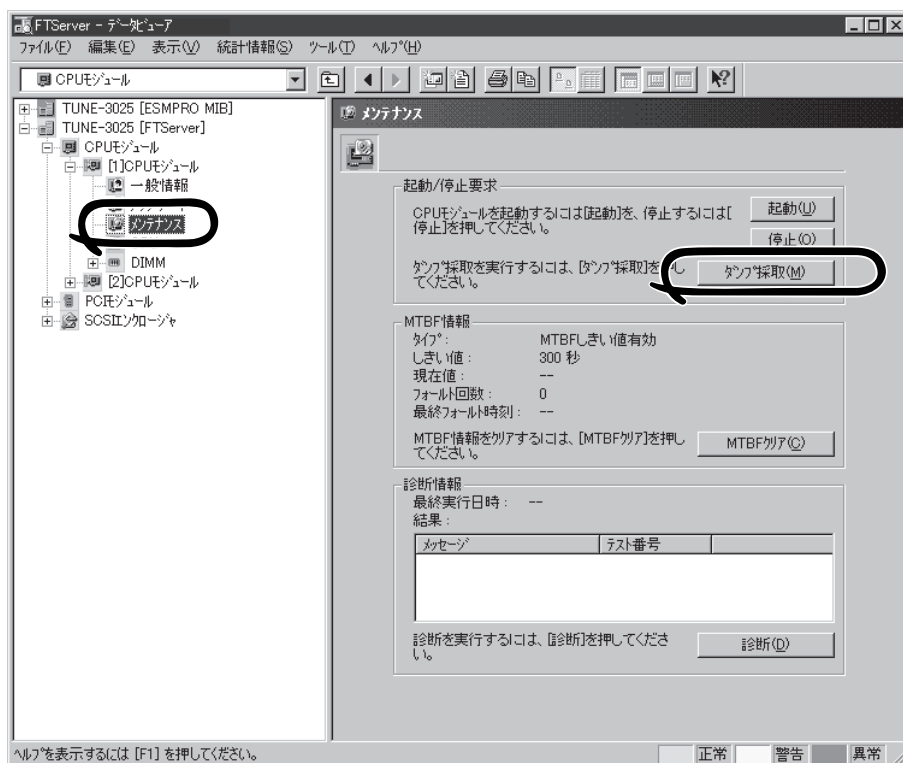
1. [FTServer]ツリーで[CPUモジュール]を選択する。
2. 対象CPUモジュール画面の「状態」表示で現在の状態を確認する。
3. 対象CPUモジュールの[メンテナンス]画面で[ダンプ採取]ボタンをクリックする。

ダンプ採取にはある程度の時間が必要です。

ダンプは被管理サーバ上のシステムが定めた場所に格納されます。

ダンプ採取結果がExpress5800/ftサーバからアラートとして通報されます。

ESMPRO/ServerManagerの画面例

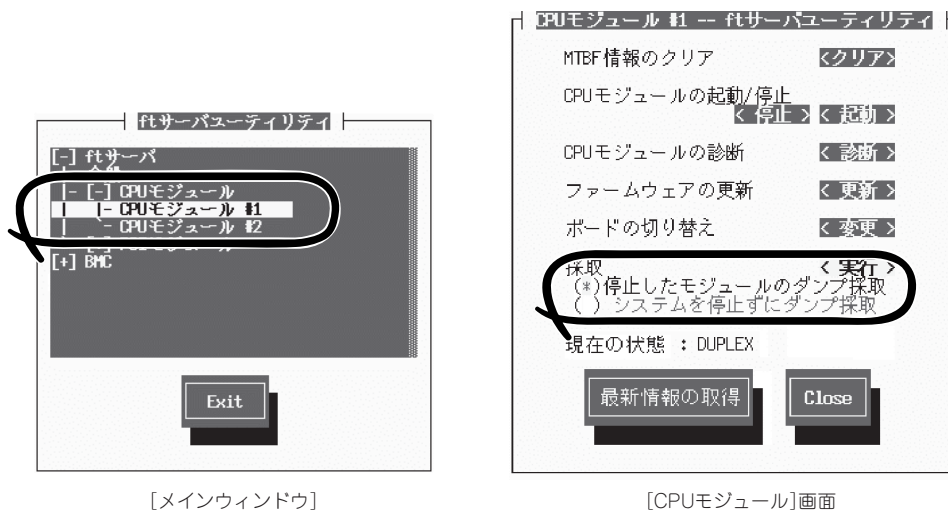


CPUモジュールの[メンテナンス]画面
[CPUモジュール] - [メンテナンス]

ftサーバユーティリティでの手順

1. ftサーバユーティリティのメインウィンドウで対象コンポーネントを選択する。
対象コンポーネントの画面が表示されます。
2. 対象コンポーネントのランプ表示で現在の状態を確認する。
3. CPUモジュール画面の[ダンプ]でダンプ採取方法を選択し、[採取]ボタンを選択する。
ダンプ採取にはある程度の時間が必要です。
ダンプはサーバ上のシステムが定めた場所に格納されます。
ダンプ採取結果はsyslogに登録されます。
4. コンポーネントを起動する。

ftサーバユーティリティの画面例



システム動作設定

システム全般の動作設定として以下のプロパティの設定ができます。ただし、現在のバージョンでは、この機能はサポートされていません。

● クイックダンプ

本プロパティをEnableにする(設定画面でチェックする)と、システムで障害が発生した場合にシステム起動と並行しながらダンプ採取を行います。Disableの場合は、OS標準のダンプ機能でダンプが採取されます。

現在のバージョンでは、Enable固定です。

● ファームウェア自動更新

本プロパティをEnableにする(設定画面でチェックする)と、既存のCPUモジュールとBIOSバージョンが異なる、新しいCPUモジュールを挿入した場合、既存のCPUモジュールのBIOSで新しいCPUモジュールのBIOSを更新し、BIOSを一致させます。Disableの場合は、自動更新は行われません。

現在のバージョンでは、Disable固定です。

● モジュール自動起動

本プロパティをEnableにする(設定画面でチェックする)と、新しく挿入されたCPU/PCIモジュールが自動的に起動され動作可能になります。Disableの場合は、自動起動は行われません。

現在のバージョンでは、Enable固定です。

設定は、ftサーバユーティリティから、[ftサーバ]ツリー→[全般]画面で行えます。

システム動作設定を変更する一般的なケースは以下のとおりです。システム動作設定を変更する場合は、保守員に相談してください。

システム設定変更は、システムの再起動後に有効となります。ユーティリティ操作画面では、再起動が必要であることを通知する表示は行われませんが設定変更の場合はシステムを再起動してください。

コンポーネント	クイックダンプ		ファームウェア自動更新		モジュール自動起動	
	Remote	Local	Remote	Local	Remote	Local
システム全般	—	システムが動作中であれば実行可能 システム障害発生時に、OS標準のダンプ機能で取得を行う場合	—	システムが動作中であれば実行可能 新CPUモジュール挿入時、ファームウェアの更新を手動で行う場合	—	システムが動作中であれば実行可能 新CPU/PCIモジュール挿入時、モジュールの起動を手動で行う場合

Remote: ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

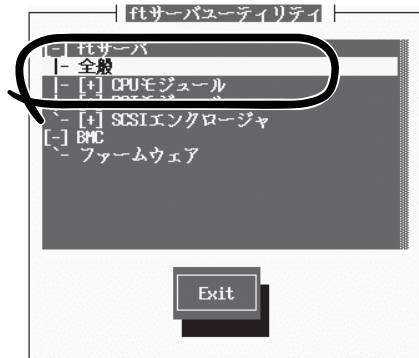
Local: ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

— :未サポート

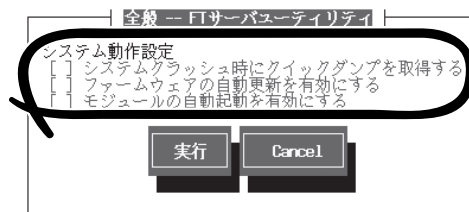
次の手順でftサーバーティリティからシステムを設定します。ESMPRO/ServerManagerからは設定できません。

1. ftサーバーティリティのメインウィンドウで[全般]を選択する。
[全般]画面が表示されます。
2. [全般]画面で変更をするプロパティをチェックする(またはチェックを外す)。
3. [実行]ボタンをクリックする。

ftサーバーティリティの画面例



[メインウィンドウ]



[SCSIパス]画面

BMCファームウェア更新

PCIモジュール上のBMCのファームウェア更新ができます。

BMC(ベースマネージメントコントローラ)はシステムの動作環境および障害などの監視、システムの制御を行う専用プロセッサです。

BMCファームウェア更新はBMCファームウェアアップデートユーティリティで行います。BMCファームウェアアップデートユーティリティはftサーバユーティリティから起動させることができます。

BMCファームウェアの更新を行う場合は、あらかじめ更新するためのファームウェアイメージファイルを被管理サーバ上に格納する必要があります。BMCファームウェア更新画面で、更新するためのファームウェアイメージファイルのパスを指定します。

BMCファームウェア更新を行う一般的なケースは以下のとおりです。



BMCファームウェアの更新を行う場合は、保守員に相談してください。

コンポーネント	BMCファームウェア更新	
	Remote	Local
BMC	—	新しいファームウェアに更新が必要な場合 モジュールの状態が以下の場合に実行可能 ・全PCIモジュールのLED緑色のみ点灯 全PCIモジュールのEDが緑色のみ点灯している状態は以下の場合に実行可能 ・ Duplex

Remote: ESMPRO/ServerManagerを使い、リモートの管理PCから実行可能

Local: ftサーバユーティリティを使い、ローカルのサーバ上で実行可能

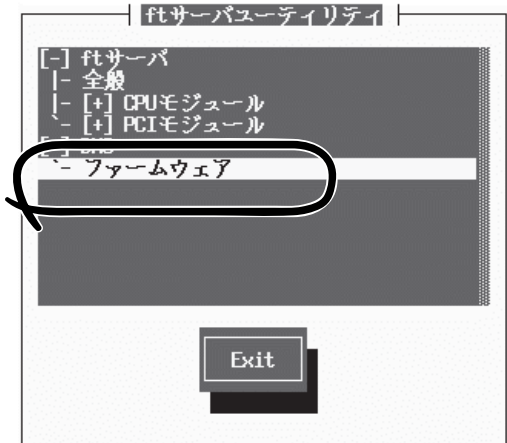
— :未サポート

ftサーバユーティリティから更新する手順

ファームウェアの更新は、次の手順で行います。

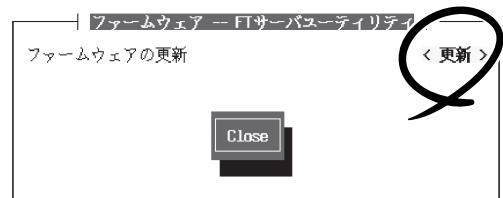
1. ftサーバユーティリティのメインウィンドウで[ファームウェア]を選択する。

[ファームウェア]ダイアログボックスが表示されます。



2. [更新]ボタンを選択する。

[BMC FW updateツール]画面が表示されます。



3. [BMC FW updateコマンド実行]メニューを選択し、<Enter>キーを押す。

ファームウェアが更新されます。

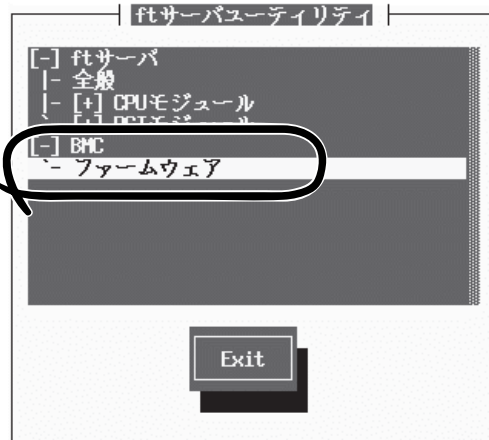


アップデートデータ格納先の変更

ファームウェアの格納先の変更は、ftサーバユーティリティを使って次の手順で行います。

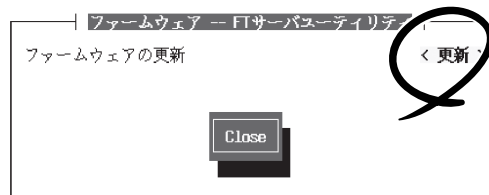
1. ftサーバユーティリティのメインウィンドウで[ファームウェア]を選択する。

[ファームウェア]ダイアログボックスが表示されます。



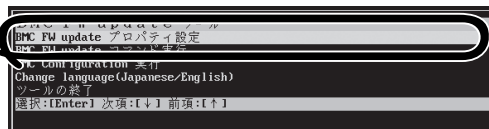
2. [更新]ボタンを選択する。

[BMC FW updateツール]画面が表示されます。



3. [BMC FW update プロパティ設定]メニューを選択し、<Enter>キーを押す。

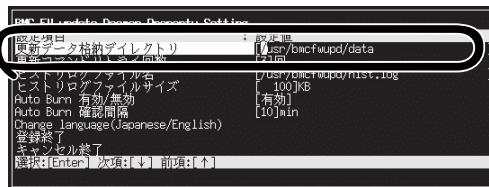
[BMC FW update Daemon Property Setting]画面が表示されます。



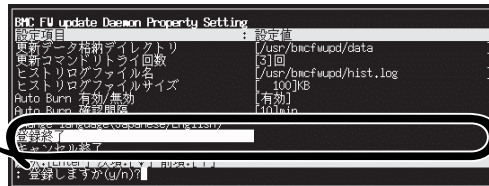
4. [更新データ格納ディレクトリ]に格納先を入力して、[登録終了]を選択する。

ここで[キャンセル]を選択すると、更新したデータを破棄して、プロパティ設定を終了します。

格納を確認するメッセージが表示されます。



5. 格納する場合は、<Y>キーを押す。格納しない場合は、<N>キーを押す。



MWA ~Management Workstation Application~

MWA (Management Workstation Application)は、ネットワーク上から管理PC (ESMPRO/ServerManagerが動作しているコンピュータ)を使用して、Expressサーバをリモート管理するためのアプリケーションです。Express5800シリーズの運用管理を行う管理者の負担を軽減させることができます。



MWAのセットアップと運用に関する詳細な説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

機能と操作方法に関する詳細な説明については、MWAのオンラインヘルプを参照してください。

通信方法について

MWAを使用する管理PCがLAN、WAN、ダイレクト(シリアル(COM)ポート)のいずれかの方法でExpress5800シリーズと接続されていればMWAを使ったリモート管理ができます。



他の管理PCがRomPilot Support[enable] (LANを経由)でリモート操作をする時は、Console Redirection(WAN経由やdirect経由)でのリモート操作は確立できません。Console Redirection(WAN経由やdirect経由)を使用してリモート操作をする場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューにある「RomPilot Support」を「Disable」にしてください。詳しい説明については、「BIOSのセットアップ」を参照してください。

MWAの機能

MWAはExpress5800シリーズのシステムBIOSや専用拡張BIOS (RomPilot)、ベースボードマネージメントコントローラ (BMC)と接続することにより以下の機能を実現しています。

● リモートコンソール機能

Express5800シリーズのPOST実行画面、およびDOSのブート中の実行画面を管理PC上のMWAのウィンドウから見るすることができます。またこの間、Express5800シリーズを管理PCのキーボードから操作できます。

● リモートドライブ機能*

管理PC上のフロッピーディスクドライブまたは、フロッピーディスクのイメージファイルからExpress5800シリーズを起動することができます。

* LAN接続時のみの機能です。

● リモート電源制御

管理PC上のMWAからリモートで、Express5800シリーズに対して以下の電源制御が行えます。

- － パワーON/OFF
- － パワーサイクル (パワーOFFの後、しばらくしてパワーON)
- － リセット
- － パワースイッチ操作

● リモート情報収集

管理用PC上のMWAからリモートで以下の情報を収集することができます。

- － システムイベントログ(SEL)
- － センサ装置情報(SDR)
- － 保守交換部品情報(FRU)
- － CMOS、DMI、PCI情報*
- － BMC設定情報

* LAN接続時のみの機能です。



ESCD情報は、収集できません。実行すると「ESCDデータリードエラーサーバーリポート: プラグ&プレイ呼出しエラー」になります。

● ESMPROとの連携*

Express5800シリーズのBMCからの装置異常などのSOS通報を受信すると通報内容を解析して、ESMPROのアラートログへ自動的に登録します。

* LAN経由のみの機能です。

動作環境

MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次のとおりです。

● 管理PC(インストールするコンピュータ)

MWAはWindowsが動作しているコンピュータ上で動作します。詳細については、「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

● MWAでリモート保守する装置

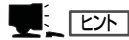
Express5800シリーズの添付ユーザズガイドにMWAの記載がある装置。対象装置には、RomPilot、BMC、SMCのいずれかが搭載されています。本装置にはBMC(IPMI Ver.1.0)が搭載されています。

MWA Managerのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、管理PC側にMWA Managerをインストールしてください。

MWA Managerは、EXPRESSBUILDER CD-ROMを使って管理PCにインストールします。

1. Windowsを起動する。

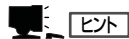


MWAが動作可能なOSについて、「MWAファーストステップガイド」を確認してください。

2. EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットする。

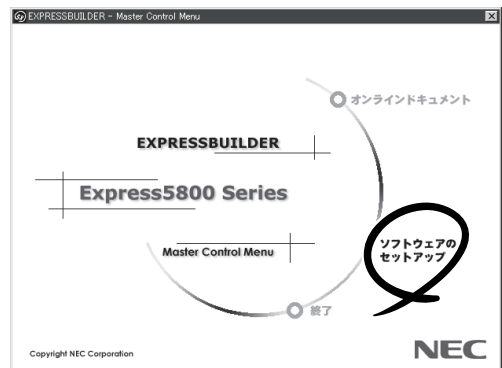
Autorun機能により、EXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

3. [ソフトウェアのセットアップ] – [MWA]の順にクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

MWAのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。



コンフィグレーション

コンフィグレーションに必要なものは次のとおりです。

- EXPRESSBUILDER CD-ROM
- 設定情報

コンフィグレーションはMWA側とExpress5800シリーズ装置側の両方必要です。MWA側ではリモート管理するExpress5800シリーズの装置台数分の設定情報が必要です。

Express5800シリーズ装置側のコンフィグレーションには2通りの方法があります。Express5800シリーズをEXPRESSBUILDER CD-ROMから起動して実行する「システムマネージメントの設定」によるコンフィグレーションと、Express5800シリーズ装置のOS上のアプリケーションであるBMCコンフィグレーションツールによるコンフィグレーションです。このBMCコンフィグレーションツールは従来のMWA Agentと同等のものです。

詳細な手順については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内にある「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールで保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

動作環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- 装置本体 本書で説明しているExpress5800/ftサーバ
- ハードディスクの空き容量 1MB以上
- メールサーバ 電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

本書で説明しているExpress5800/ftサーバに添付されているESMPRO/ServerAgent(Linux版)

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのための契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

